モニター意見

日本自然災害学会誌 Vol. 25 No. 1を読んで

石井　悳

台風10号の接近の最中で，この学会誌を読ませていただきました。DIG活動など地道な防災への取組は大いに参考にしていきたいと考えています。我々の町内が2004年の台風23号で被災してから，岡山理科大の協力を仰ぎながら現地の地形地質調査が少しずつ進み，NHKなどにもその活動が報道されたりしています。防災活動も町内100軒弱から玉野市の宇野地区2500軒へとその連携が少しずつ広がり，足が地に着いた地味な活動へと移行しつつあります。地区活動と学会活動の報告を積極的に取り上げていただければ，単に不安を増幅するだけの防災から，一歩も二歩も進んだ防災活動が出来ると考えています。防災に必要なライブラリの充実や貸し出し，講師派遣なども含めた学会支援がいただければありがたいなどとも思ったりしています。

自然災害科学 Vol. 25 No. 1 2006について

高山　稔

近年の自然災害はどんどん威力が増し，その被害も甚大なものとなっている。

また，自然現象そのものが，過去の記録や知識，経験をはるかに超えた想定外の規模となり始めている。

人類のやりたい放題に痛めつけられた地球が，とうとう怒り狂ったのだろうか？

災害図上訓練DIGや地域単位の防災活動を広めていかねばならないと痛感した。

また，私の居住地は北陸富山市であるが故に，雪害も身近なものであり平成18年豪雪の速報は興味深く読ませていただいた。

我々が今できることは，自然と上手に共存する事，すなわち暑い時は汗をかき，寒い時はじっと我慢して，要するに不便な時代の生活に戻るということが，人類の急務ではなかろうか？